タイ版「ゴッド・ファーザー」の政界人脈

タイには「チャオ・ポー」と呼ばれる、表向きは実業家だが裏で地下の非合法社会をも支配する地域有力者たちがいる。権力指向の強い彼らは、自身や身内を国会に送り込んだり、地元の政治家を「後援」したりして政界に隠然たる影響力を持ってきた。今年11月までには新憲法に基づく総選挙が実施されるが、タイの政治文化に深く根付いてきたこれら「闇の権力」に関わる政治家を排除することは難しそうだ。タイ政界の「チャオ・ポー」人脈を紹介しながら、彼らが総選挙に前後する政界再編でどのような役割を演じるのかを検証する。

パナワット議員暗殺未遂事件

タイ語の「チャオ」は「主」を意味し、宗教的に「(プラ)チャオ」といえば「神」のこと。「ポー」は「父」。従って、「チャオ・ポー(jao pho)」は文字通り英語の「ゴッド・ファーザー」に匹敵する。「チャオ・ポー」は表向きは特定地域の大地主であり、精糖・醸造工場、タバコ農園、ホテル、ショッピング・センター等を経営する有力事業家だが、裏の顔は一帯の地下賭博場、麻薬売買、密輸、売春といった非合法活動を「仕切る」ことで巨額を得ている「マフィアのボス」だ。彼らは(自ら出身を明らかにしなくても)基本的に華人系だといってよい。

権力と利権を指向する彼らは自らの合法・非合法の経済活動を保護するために、県知事、郡長、警察署長などと「友好関係」を築く。さらに、その豊富な資金力を用いて自身や身内を国会に送り込んだり、地元の政治家を「後援」したりして中央政界で影響力を行使する。ところで、タイの総選挙で下院議員候補一人を「後援」するには、最近は2,000－5,000万バーツ(約5,700万－1億4,200万円)かかるとされている。従って、「チャオ・ポー」と支援する政治家の間の「パトロン－クライアント」関係が一旦こじれると暴力沙汰に発展することも多い。

昨年12月中旬に発生したパナワット・リエンポンパン下院議員(民主党：ブリラム県2区)に対する暗殺未遂事件がその典型的なケース。全身に4発の銃弾を受けながら奇跡的に一命を取り留めたパナワット氏は、暗殺を依頼した黒幕が同氏と同じ選挙区選出の連帯党下院議員で、「ブリラムのチャオ・ポー」の異名を持つチャイ・チッチョープ氏だと主張した。過去にチャイ氏の「後援」で政界入りしたパナワット氏が、そのパトロンに対し「叛旗を翻した」ことがこの事件の背景にあるらしい。

チャイ・チッチョープ氏

実行犯の「ムー・プーン」(プロのガンマン)はすぐに逮捕されたが、この男は1月中旬に開かれた公判で暗殺依頼者については黙秘した。事件の捜査は今後も紆余曲折を経るだろうが、結局真相は闇に葬られる可能性が高い。実行犯をスケープゴートにして「一件落着」。タイにおけるこの種の事件の典型的な結末だ。

各地方の「チャオ・ポー」たち

【東北部】「ブリラムのチャオ・ポー」チャイ氏は現在72歳。タイ・カンボジア国境のスリン県で象の飼育場に生まれた同氏は少年期を「象使い」として過ごす。1961年に建設現場に砂利を供給する契約を得たことがきっかけで、実業家として頭角をあらわし、今日では地元建設業界の重鎮にまでのし上がった。しかし、同氏が「チャオ・ポー」と呼ばれるようになった所以は、一帯の地下社会での非合法ビジネスを支配し、莫大な闇資金を創り出したことにある。

そうした資金をふんだんに使い、1969年には中央政界に進出。以来30年間、ブリラム県2区で下院議員の議席を維持している。この間、貧困な東北タイでも最貧困地帯といわれたブリラム県に、全国でもベストといわれる道路、貯水池、灌漑設備などの建設事業を誘致した。だから、地元住民の多くにとって、チャイ氏はあくまで地元の発展に貢献してきた「選良」なのだ。

さて、現在のブリラム県にはチャイ氏以外に3選挙区で計9人の下院議員がいる。この9人は与野党に分かれてはいるが、全員がチャイ氏の政治的「支配下」にあるといわ

れてきた。その「出世頭」が同氏の息子のネウィン・チッチョープ副農業・協同組合相(［人物データ・ファイル］参照、以下《p》)。その金権・汚職体質から、地元マスコミが批判的に取り上げることの多い政治家の筆頭格だ(ネウィン氏の夫人、カルナ氏も9人のうちの一人)。

チャイ氏にとっていま問題なのは、下院任期切れの今年11月までに実施される総選挙が、初めて新憲法による小選挙区比例代表並立制に基づくことだろう。もし9人の現職議員の中で、チャイ氏の「仕切る」立候補者調整や政界再編への対応に従わない者がいるとしたら？ それは「チャオ・ポー」には「鉄の掟」に背いた人物ということになる。忠実な9人の一人であるはずだったバナワット議員に対する暗殺未遂事件の真相はこの辺りにあるのかもしれない。

【中部】一般のタイ人の間で最も知名度の高い「チャオ・ポー」は「カムナン・ポー」ことソムチャイ・クンプルーム氏(62)。首都バンコクに隣接し、リゾート地パタヤで知られるチョンブリ県の「チャオ・ポー」だ(因みに、「カムナン」は村長のこと。「チャオ・ポー」は政界への第一歩として「カムナン」に就任することが多い)。同氏の経歴はバスの車掌から出発しているが、いくつかの幸運も重なり、現在では同県内に広大な土地とホテル、リゾートなどを所有する事業家になった。また、パタヤ・ビーチのマッサージ・パーラーなど風俗営業界の「帝王」でもある。過去にビジネス上のライバルが殺害された事件をはじめ、様々な犯罪への関与を疑われ、家宅捜索を受けたことも度々。しかし、同氏は公安当局には「闇の権力者」であっても、地元住民にとっては福祉事業などに惜しみなく寄付する慈善家の顔も持っているのだ。

ソムチャイ・クンプルーム氏

そのソムチャイ氏だが、自らは政界入りせず、ソンタヤー(36)、ウィタヤー(34)という2人の息子を与党第三党・タイ国民党から下院議員に当選させている。長男のソンタヤー・クンプルーム氏《p》は現副運輸・通信相で、チュアン内閣では2番目に年少の閣僚。同氏の入閣は国民党が父のソムチャイ氏に「敬意」を表した計らいなのは明らか。というのも、チョンブリ県3選挙区の計7議席は国民党が独占しているが、それがソムチャイ氏の政治的、財政的な「後援」によるのはいうまでもないからだ。

また、ペチャブリ全県区で2人の下院議員を出している「アンキナン家」なども「チャオ・ポー」といえるだろう。

【北部】「チャオ・ポー」で首相の座に就く一歩手前までいったのが、ナロン・ウォンワン氏(74)。同氏は米国の大学を卒業したインテリの「ゴッド・ファーザー」で、農業・協同組合相、副首相などを歴任。軍事クーデター発生の翌年(92年)3月の総選挙で、国軍と連携する正義団結党が第一党になった時の同党党首だった。同氏が結局首相になれなかったのは、組閣前夜に米国政府が同氏を「麻薬密売人」容疑で米国へのビザ発給停止対象者リストに載せたことを発表したからだ。同氏は95年に政界を引退したが、一時は北部の下院議員50名が超党派で同氏に忠誠を誓っていたほどの人物だけに、現在でも同地域で隠然たる影響力を持っている。チュアン政権がナロン氏に配慮していることは、同氏の息子、アヌソーン・ウォンワン氏《p》が3回生議員ながら入閣していることからもわかる。

ナロン・ウォンワン氏

「チャオ・ポー」たちの生き残り作戦

こうしてみると、タイ政界に伝統的な、金権体質で地方有力者タイプの政治家は多かれ少なかれ「チャオ・ポー」的要素を持っているといえる。新選挙制度の目的のひとつはこのような資質が疑問視される政治家の淘汰にあるのは間違いない。しかし、現在のタイ政局をみる限り、「チャオ・ポー」たちが次の総選挙で消えていく徴候はない。中部サムットプラカーン県の「チャオ・ポー」、ワタナ・アサワヘーム現副内相《p》率いる12名の議員(「コブラ・グループ」)が野党から与党陣営に「鞍替え」することでチャワリット前政権からチュアン現政権への政権交替が可能になったように、権力と利権の流れに敏感な「チャオ・ポー」たちが今後の政界再編の「キャスティング・ボート」を握る可能性は依然高いのだ。

例えば、「ワン・ナム・ジェンのゴッド・ファーザー」との異名をとる、野党第一党・新希望党のサノー・ティエントン元内相《p》の動きだ。同氏は次期総選挙前に40－50名の同党議員を引き連れて新党・タイ愛国党(タクシン・チナワット党首)に移籍する可能性が濃厚。これは愛国党がチュアン首相率いる現与党第一党・民主党の強力なライバルとして浮上することを意味する。「チャオ・ポー」たちが新選挙制度下での自らのサバイバルを賭けて、今後どんな合従連衡劇を演じるのか要注意だ。

(訂正とお詫び)

前号(2000年2月15日号)本欄中の「ベトナム共産党幹部および一部閣僚人事」で、ホーチミン市党委書記のチュオン・タン・サン氏が党中央委大衆宣伝・動員部長に異動になった、との記述がありますが、「大衆宣伝・動員部長」は「経済部長」の誤りです。従って、読者の皆様には［人事データ・ファイル］も含め、「大衆宣伝・動員部長」を「経済部長」に置き換えて理解していただきますようお願いします。訂正しお詫びいたします。

〔人物データ・ファイル〕
タイ政界の「チャオ・ポー」人脈

■ネウィン・チッチョープ
Newin Chidchob
＝東北部の「チャオ・ポー」、チャイ下院議員の息子

ブリラム県の「チャオ・ポー」、チャイ・チッチョープ下院議員の息子。先回(96年11月)の選挙を前にして、タイ国民党(CTP)から事実上「追放」された同氏は、同氏が率いるブリラム１区「チーム」とともに土壇場で連帯党(Sol：チャイヨット・サソムサップ党首)に移籍した。しかし、この選挙では、同氏がトップ当選しただけでなく、同チームが全議席(３議席)を独占し、地元での「人気と実力」を証明してみせた。

常に「金権政治家」のイメージが付きまとっており、「麻薬密売人」の噂があるワタナ副内相とともにチュアン現政権の発足時から「火薬庫」的存在といわれてきた。昨年(99年)は95年の選挙を巡る名誉毀損罪で有罪判決を受けたが、執行猶予付きだったために閣僚辞任を拒否し、野党やマスコミから激しい批判を浴びた(本人は辞任の意思がないことを断言)。また、昨年12月18日に発生したバナワット民主党下院議員(ブリラム２区選出)暗殺未遂事件では、父の「チャオ・ポー」チャイ氏や実兄タウィーサク氏が実行犯の背後にいるとの疑惑が出ている。それでも、最近は(この事件が話題になる前まで)同氏の不正疑惑に関する報道は幾分鳴りを潜めていた感がある。過去には、チャチュンサオ県のクロン・シヤッド・ダム建設請け負いで、ある日本企業の入札に対して妨害工作をするなど、疑問視される行動は数多い。とにかく、地元マスコミで最も論議を呼ぶ政治家の一人といってよい。

▼データ
【公職】副農業・協同組合相 Deputy Minister of Agriculture and Cooperatives
【政党】連帯党(Sol)：幹事長
【年齢】41歳(1958年10月４日生まれ)
【生地】東北部・スリン県
【学歴】ブリラム教員養成大学卒(短大卒業資格)
パシフィック・ウェスタン大学から理学士取得
【経歴】
1985：ブリラム県議会議員
1986：下院議員に初当選(タイ人民党：以来、毎回の総選挙で連続当選)
1988：首相府相政務秘書官
1991：商業相政務秘書官
1995：副蔵相
1996：[11月] 下院議員に再選
(ブリラム１区：トップ当選)
1997：[11月15日] 副農業・協同組合相
(チュアン内閣)
【家族】カルナ(Kruna Chidchob：別名スパ)夫人
(下院議員)
【横顔】
・1995年７月総選挙の運動期間中に、同氏の運動員数名が120バーツを１セットに束ねた現金総額1100万バーツを所持していたとして逮捕された。同氏は票の買収容疑との関係を否定したものの、同氏の大きなイメージ・ダウンになった。同選挙後に成立したバンハーン政権では副蔵相に就任したが、民主党(Dem)を中心にする野党(当時)がバンハーン首相に強く更迭を要求した閣僚の筆頭だった。バンハーン政権が１年後に崩壊したのは、マスコミや国民の間での同氏のイメージの悪さに負うところも大きい。
・反面、歯に衣を着せぬ論客として知られる。過去にタイ人民党、連合民主党、正義団結党、タイ国民党、連帯党と所属政党を転々としてきたが、関係したあらゆる政党から、内閣不信任案審議の時の主要な「追求者」役を任じられることが多かった。
・94年には、㈱ファースト・シティ・インベストメントによる株価の不正操作事件の捜査に関連して、国会で旧チュアン政権を厳しく追求したことで一躍有名になった。また、「ソー・ポー・コー」土地改革計画の実施に絡む閣僚の汚職疑惑追求の急先鋒になり、これがきっかけで(92年発足の)旧チュアン政権が崩壊した。
・昨年の一時期、同氏が総選挙を前に Sol を離党し、タクシン党首率いる新党・タイ愛国党に移籍するとの情報もあったが、同氏は Sol に留まると表明している。

■ソンタヤー・クンプルーム
Sonthaya Khunpluem
＝チョンブリ県の「チャオ・ポー」、ソムチャイ氏の息子

バンコクに隣接するチョンブリ県の「親分」、ソムチャイ・クンプルーム氏(愛称「カムナン・ポー」)の息子。1991年の総選挙で初当選し、政界入り。選挙区のチョンブリ県は従来、連帯党(Sol：現チュアン連立政権与党)の拠点だった。しかし、95年７月の総選挙では、同県のベテラン政治家ウタイ・ピムチャイチョン元下院議長(連帯党党首：当時)が落選するハプニングがあったばかりか、タイ国民党(CTP)が同県の６議席全て(当時)を独占することになった。その背景にはカムナン・ポーの強力な CTP への肩入れがあった。同選挙後に成立した CTP 主導のバンハーン政権で、ソンタヤー氏が３回生議員だったにもかかわらず初入閣したのは、バンハーン首相によるクンプルーム家への「功労賞」だったのは間違いない(バンハーン CTP 党首は現在もカムナン・ポーには深い恩義を感じているといってよいだろう)。

CTP は先回(96年11月)の総選挙でもチョンブリ県３選挙区の全議席(７議席)を独占しているが、その議員たちのリーダー格が、現内閣でアビシット首相府相(35)に次いで年少の閣僚である同氏(36)だ。97年11月発足の現チュアン政権に CTP が連立与党入りしたのに伴い副運輸・通信相に就任している。

▼データ
【現職】副運輸・通信相 Deputy Minister of Transport and Communications
【政党】タイ国民党(CTP)
【年齢】36歳(1963年12月10日生まれ)
【生地】中部・チョンブリ県
【学歴】シーパトゥム大学法学部卒
【経歴】
1992：下院議員に初当選(国家開発党：CPP)
工業相政務秘書官
下院観光常任委員会委員
1995：副工業相(バンハーン内閣)
1996：[11月] 下院議員に再選
(チョンブリ２区：トップ当選)
1997：[11月15日] 副運輸・通信相
(チュアン内閣)
【家族】独身
【横顔】
・バンハーン CTP 党首(元首相)が、クンプルーム一家に党への支援を要請するとともに、95年の総選挙前に同家のソムチャイ、ウィタヤ(同じく下院議員：チョンブリ１区でトップ当選)兄弟の国家開発党(CPP：当時はチャチャイ党首)から CTP への「鞍替え」を促したのは、今となっては CTP にとって最もスマートな動き(？)だったといえる。

■アヌソーン・ウォンワン
Anusorn Wongwan
＝北部の「チャオ・ポー」、ナロン元副首相の息子

1995年に政界から引退した北部の「チャオ・ポー」、ナロン・ウォンワン元副首相の息子。初入閣した95年はタイ国民党(CTP)枠で民間(非議員)からの抜擢だった。バンハーン首相(当時：CTP 党首)が自党の主要な資金提供者であるナロン氏に配慮した計らいだ。96年５月からの短期間にはバンハーン改造内閣で副内相も経験。

先回(96年11月)の総選挙で国家開発党(CPP)から下院議員に返り咲いた。昨年(99年)７月のチュアン改造内閣で副労働・社会福祉相に就任。この人事は地元マスコミを驚かせた。同氏の過去の閣僚としての実績は「とても傑出したものとは言いがたい」(「ネーション」紙)からだ。この入閣も CPP が同氏の父を喜ばせるためだったのは明らか(それ程、ナロン氏は北部の政治家の間で現在も隠然たる影響力を持っているのだ)。CPP 内では「新世代」政治家のサワット・リプパンロップ幹事長に近いが、今年中に予定されている次期総選挙を前に CPP を離脱するとの噂もある。

▼データ
【公職】副労働・社会福祉相 Deputy Minister of Labour and Social Welfare
【政党】国家開発党(CPP)
【年齢】48歳(1952年1月7日生まれ)
【学歴】米国で理学学士号取得
米・北カロライナ州立大学で工学修士号取得
【経歴】政界入り前は実業家
1988：下院議員に初当選(タイ協同党：以後、92年3月の総選挙で再選)
1995：[7月] 副工業相(バンハーン内閣)
1996：[5月] 副内相(バンハーン改造内閣)
[11月] 下院議員に返り咲き
(北部・ランプーン全県区：トップ当選)
1999：[7月] 副労働・社会福祉相
【横顔】
・3回生議員。88年に下院議員に初当選しているが、92年から96年までは実業家に戻っている。
・昨年9月の台湾大地震の際、同地のタイ労働者に対する支援の意味も含めて組織されたタイ政府の救援チームの団長として台湾を訪問している。

■ワタナ・アサワヘーム
Vatana Asavahame
＝サムットプラカーン県の「チャオ・ポー」

10回当選のベテラン議員。1990年代の初めに米国から「麻薬密売」組織の首謀者の一人として名指しされ、ビザ発給停止対象者リストに加えられことで、今日まで尾を引く政治的大打撃を被った。92年の軍部主導のスチンダ政権には、首相府相として入閣したものの、95年のバンハーン政権では、当時自らが幹部であったタイ国民党(CTP)主導内閣だったにもかかわらず、世論の反対で入閣を見送られた。同政権の崩壊後にタイ人民党(PTP)に移籍し、先回(96年11月)の総選挙では、同氏が率いる PTP チームが中部・サムットプラカン県の6議席を独占するという「快挙」を成し遂げた。

チャワリット前首相辞任で政界が混迷した97年11月、当時連立与党だった PTP のサマック党首(元副首相)に造反、同党から自らを含む12名を率いて当時野党第一党・民主党(Dem)のチュアン党首の首班指名に賛成する側に回った。この12名がいなければ、民主党を中心とする現連立政権は下院で過半数を獲得できなかったわけで、サナン内相(民主党幹事長)の多数派工作が功を奏した裏には同氏の存在があった。世論はチュアン政権を待望していたことからも、この造反は一般からは好意をもって迎えられた。92年以来になる、現チュアン政権での入閣は明らかな「功労賞」だ。〔同氏ら12名の PTP 造反派は地元マスコミから「コブラ・グループ」とのあだ名を付けられたが、最終的には PTP から除名処分になった。昨年2月に憲法院が同グループの他党への移籍を認める裁定を下したことにより、グループ中同氏に率いられた9名がほぼ「休眠政党」になっていた民衆〔ラサドーン〕党の傘下に入ることになった)。

▼データ
【現職】副内相 Deputy Minister of Interior
【政党】民衆(ラサドーン)党
【年齢】58歳(1941年6月30日生まれ)
【学歴】(現)ラチャバット・インスティチュート卒
(トンブリ、教養学士：公共行政)
【経歴】
1975：下院に初当選
1976：副工業相(ククリット内閣)
1988：副内相(第1次チャチャイ内閣)(－90)
1992：首相府相(スチンダ内閣)
1996：[11月] 下院議員に再選
(サムットプラカン1区：トップ当選)
1997：[11月15日] 副内相(チュアン内閣)
【横顔】
・1988年の第1次チャチャイ内閣で、副内相として入閣し、労働局(現労働・社会福祉相)を担当した。労働問題には当時から熱心で、「労働者の親分」との異名をとったこともある。
・**実弟：ソンポーン・アサワヘーム(Somporn Asavahame)：下院議員**

88年に初当選した下院議員(サムットプラカン1区：当選5回)で、96年12月のチャワリット内閣発足時に(米国から「麻薬密売人」の容疑がかけられている)兄の「代役」として副商業相を務めた(初入閣)。同氏もバンブリ、バンボ両郡などの選挙民からは、地元のインフラ建設に尽力したとして、兄同様絶大な人気がある。
・ワタナ氏の2人の息子の内、長男のプーンポン(Poonpol)は先回(96年11月)の総選挙で東部プラチンブリ県から出馬し、下院議員に初当選。政治集団「パク・ナム2000」グループを率いる二男のチョンサワット(Chonsawat)氏はサムットプラカン市長代行として昨年5月の同市議選を戦った。しかし、この選挙は不正が横行したため、裁判所による命令で前代未聞の選挙やり直しとなった。同氏はその責任をとり市長代行職を辞任している。

■サノー・ティエントン
Sanoh Thienthong
＝東部の「チャオ・ポー」

1976年に政界入りした9回生のベテラン議員。地元では「ワン・ナム・ジェン(Wang Nam Yen)のゴッド・ファーザー」との異名を持つ、東部プラチンブリ県の「チャオ・ポー」。同氏が率いる政治集団(「ワン・ナム・ジェン」グループ)の動きは、これまで政界再編に連動することが多かった。1996年11月にチャワリット政権が成立したのも、その直前に与党第一党・タイ国民党(CTP：バンハーン党首)に属していた同グループが与党第二党・新希望党(NAP)のチャワリット党首と連携してバンハーン首相に造反したことが引き金になっている。同氏は先回(96年)の総選挙前に多数の党員を引き連れて CTP を離脱、NAP に移籍。この移籍がなければ選挙での NAP の勝利、ひいてはチャワリット首相誕生もありえなかった。

現チュアン政権下では野党にいる同氏だが、今年に入って、「ワン・ナム・ジェン」グループを中心にする下院議員40－50名が今度は NAP を離脱し、次期総選挙前にタクシン党首率いる新党・タイ愛国党に参加する可能性が濃厚になってきた。これは愛国党がチュアン首相率いる現与党第一党・民主党(Dem)のライバルになる可能性を持つことを意味し、96年の政権交替劇の再現となるかもしれない。同氏は「造反」することで「キングメーカー」を演じる政治家だといえる。

▼データ
【現職】下院議員(元内相)
【政党】新希望党(NAP：野党)
【年齢】65歳(1934年4月1日生まれ)
【生地】プラチンブリ県
【学歴】
1995：シーパトゥム大学法学部卒
【経歴】(政界入り前)建設、小売りセンター、不動産等のビジネスを拡大
1976：国家行政改革評議会委員
1976：下院議員に初当選
1979：国家立法議会議員(任命制)
1980：副内相
1986：副農業・協同組合相(－88)
1992：副運輸・通信相
1995：[7月] 保健相
1996：[11月] 下院議員に再選
(サケオ全県区、トップ当選)
[12月1日] 内相(－97年11月)
【家族】ウライワン(Uraiwan)夫人との間に1男1女
【横顔】
・長い間、東部の議員たちの選挙、財政面等の「世話役」をしてきた。同氏のこうした影響力は、カンボジア国境沿いのプラチンブリ、サケオ両県で持っている、建設業や材木業を背景にした絶大な財力を背景にしている。先回(96年)の選挙ではサケオ県(全県区)の3議席はティエントーン家が独占している。
・91年にチャチャイ政権を打倒した軍事クーデターの際は、軍政から「不正蓄財」の容疑で財産を押収されたことも。しかし、92年3月にその軍政主導で成立したスチンダ政権に副運輸・通信相としていつの間にか参加していたあたりは同氏のしたたかさでもある。

(アジア政治アナリスト 勝田 悟)